令和8年「まほろば会初詣」資料

NHK 大河ドラマ蔦屋重三郎ゆかりの地、吉原界隈を巡る

（小塚原回向院・延命寺・平賀源内の墓・吉原大門・見返り柳・新吉原跡地
・吉原神社・吉原弁財天・鷲神社・浄閑寺）

令和8年1月24日（土）

まほろば会

はじめに

昨年の初詣会は「上野の森に所在する寺社を詣でる」とし、上野寛永寺一帯を参拝しました。今年は、「NHK大河ドラマ 蔦屋重三郎ゆかりの地、吉原界隈を巡る」と銘打ち、あまりなじみのない方も多いと思われる吉原界隈を巡ることとします。訪問場所が多いですが、小さな場所も多くそれぞれの滞在時間は限られています。大河ドラマを見ている方はその場面を思い出すなどして江戸時代に思いを馳せてください。

また、蔦重ゆかりの地ではあるものの場所が離れている先は今回の訪問先からは外しています。そのかわり南千住駅近くの2つの寺を追加しました。吉田松陰や橋本佐内といった幕末の志士たちの墓がある小塚原回向院（誘拐犯罪史上歴史に残る吉展地蔵尊もあります）、首切地蔵として有名な延命寺（江戸時代の処刑場あと）をまず最初にご覧いただきます。

吉原界隈の見どころとしては、吉原神社・吉原弁財天・鷲（おおとり）神社あたりかと思われます。吉原神社・吉原弁財天は以前は、映画「吉原炎上」で主役をつとめた名取裕子のコメントや関連ツールが掲げられていましたが、今回は大河ドラマ一色になっているかもしれません。終盤で訪問する鷲神社は熊手を売る露天商が並ぶ酉の市で特に有名です。当日の混雑度合いにもよりますが初詣と記念撮影を行う予定にしています。

午後からは北千住駅前「はなの舞」にて新春懇親会を開催します。どうぞお楽しみください。

幹事　上原・斎多

JR常磐線
TX南千住
JR南千住
南千住
貨物線
南千住仲通
日光街道
三ノ輪橋
三ノ輪
明治通り
国際通り
千住通り
吉野通り
千束通り
中根通り
日本堤
東浅草
吉原
千束
今戸
泪橋
地方橋
紙洗橋
回向院
浄閑寺（投込寺）
延命寺
南千住駅前歩道橋
LaLaテラス BiVi南千住
（ドナウ広場）
真崎銭座跡
石浜神社
背向地蔵
根岸図書館
目黄不動尊
改栄湯
日の出湯
有馬湯
一葉さん 新五千円札に登場
一葉記念館
一葉泉
千束稲荷神社
美須湯
警察署
大音寺
朝日弁財天
西徳寺
長国寺
飛不動
都立台東病院
吉原神社
鷲神社
吉原弁財天
富久の湯
ひがしん
栄湯
梅の湯
見返り柳
新吉原跡地
堤柳泉
武の湯
江戸六地蔵
城北信金
Denny's
AQUA プレイス旭
清川
サイゼリア
宝珠稲荷神社
玉姫稲荷神社
平賀源内の墓
富士の湯
松吟寺
北部区民事務所 清川分室
玉の湯
橋場
妙亀塚
石浜図書館
本性寺
平和湯
明治天皇歌碑
北めぐりん

小塚原回向院

小塚原回向院の概要

小塚原回向院は本所回向院の住職弟誉義観が、行路病死者や刑死者の供養のため、1667年に**小塚原刑場**の傍らに開いた寺院です。文政5年（1822）津軽藩主津軽寧親を襲撃した南部藩出身の相馬大作を処刑して以降、国事犯の処刑場となったため、橋本左内、頼三樹三郎、吉田松陰や鼠小僧、高橋お伝の墓など多くの供養碑があります。

小塚原回向院の縁起

明和8年（1771）蘭学者**杉田玄白・中川順庵・前野良沢**らが、小塚原で刑死者の解剖に立ち合った。後に解体新書を翻訳し、日本医学史上に大きな功績を残したことを記念して、対象11年に観臓記念碑が建立された。

小塚原回向院にある荒川区登録記念物（史跡）

・吉田松陰の墓　・橋本左内の墓　・頼三樹三郎の墓　・小塚原刑場跡　・観臓祈念碑

小塚原刑場跡

小塚原の刑場は、寛文7年（1667）以前に浅草聖天町辺りから移転してきたといわれています。間口60（108m）、奥行30間余（54m）、約1,800坪の敷地でした。日光道中に面していましたが周囲は草むらだったといわれ、浅草山谷町と千住宿の間の町並みが途切れている場所に位置していました。
小塚原の刑場では、火罪・磔・獄門などの刑罰が執り行われるだけでなく、刑死者や行倒れ人等の無縁の死者の埋葬も行われました。時に刑死者の遺体を用いて行われた刀の試し切りや腑分け（解剖）も実施されました。また、徳川家の馬が死んだ後の埋葬地として利用されることもありました。そして回向院下屋敷（現回向院）はこれらの供養を担っていました。
明治前期には、江戸時代以来の刑場としての機能は漸次廃止、停止され、回向院は顕彰、記念の地となっていきました。また「観臓記念碑」は、杉田玄白や前野良沢らが、ここで腑分けを見学したことをきっかけとして「ターヘルアナトミア」の翻訳に着手し「解体新書」を出版したことを顕彰するため建てられたものです。回向院境内にはこうした数多くの文化財が残っており、刑場の歴史を今に伝えています。

小塚原回向院本堂

橋本佐内の墓

吉田松陰の墓

小塚原刑場跡（延命寺・首切り地蔵）

東京都荒川区南千住2丁目にある浄土宗の寺が、延命寺。昭和57年、小塚原刑場の傍らに開かれた小塚原回向院から分院独立し開山した寺で、境内には首切り地蔵と呼ばれる地蔵尊が祀られています。一帯は江戸時代に江戸に2ヶ所あった江戸のお仕置場（刑場）、小塚原刑場の跡です。

罪人の斬首を見守った首切り地蔵

品川の鈴ヶ森刑場とともに、江戸に2ヶ所あったお仕置場（刑場）のひとつが小塚原刑場。
慶安4年（1651年）に設置された刑場は、間口60間（108m）、奥行30間余（54m）で、明治6年に廃止されるまで、多くの罪人が磔（はりつけ）、斬罪（ざんざい＝首切り）、獄門（首を斬って公衆にさらす刑）などで処刑されています。
天保3年8月19日（1832年9月13日）には大名屋敷を専門に荒らし義賊伝承が残る鼠小僧次郎吉が市中引廻しの小塚原刑場で処刑（斬首の獄門）されています。

首切り地蔵は、小塚原刑場で処刑された死者、日光街道で行き倒れになった人の菩提を弔うため、寛保元年（1741年）に建立されたものです。
像高は1丈2尺（3.6m）で、浄心が願主となり、木場の深川伊八らの寄進で造立。
石工は、大坂西横堀・中村屋半六で、本体25個、台座8個の花崗岩を組み合わせて建立しています。
台座には「天下泰平 国土安寧」と刻まれることから、無縁仏の菩提を弔うことで、天下泰平を願うために建立したということがわかります（明治20年頃までは、処刑された人の親族たちが手を合わせる姿があったとも）。

明治28年、隅田川駅（貨物駅）開設の鉄道敷設工事のため現在地に移設されたもので、往時には隅田川貨物線の南側に安置されていました。
首切り地蔵の名がありますが、地元では延命地蔵と呼ばれ、首のない地蔵ではなく、斬首を見守った地蔵。
東日本大震災の際に倒壊したことで、解体復元工事が行なわれ、その際に、胎内から火葬骨、一字一石経、古銭（寛永通宝、文久永宝など）などが見つかっています。

『べらぼう』ゆかりの地を訪ねよう 吉原

左上：山谷堀公園に立つ「新吉原」の解説板　右上：吉原神社の社殿に掲げられた「九郎助稲荷」などの提灯
左下：独特なデザインが目を引く吉原弁財天本宮の社殿　右下：吉原大門が建っていた場所の現在の風景

五十間道

Gojikken-michi Street

蔦重が貸本業をはじめた吉原遊郭の門前にある道

街道の日本堤から吉原の大門までを結ぶ道路です。名称は距離が50間（約90メートル）だったことに由来するといわれ、両側には引手茶屋や小料理屋などが軒を並べました。道がS字カーブをしているのは、将軍や大名が日本堤を通る際、遊郭を見渡せないようにするための配慮だそうです。なお、日本堤から大門方面へ下る坂は「衣紋坂」と呼ばれ、その名称は遊客がここで衣服を直したことにちなみます。

この地は、蔦屋重三郎（以下、蔦重）が義兄の営む引手茶屋「蔦屋」の軒先を借りて、貸本業をはじめた場所です。のちに蔦重が自分の本屋「耕書堂」の1号店を構えた場所でもあります。両店舗ともS字カーブをしている道の南側にありました。

写真：蔦重の店はS字カーブの写真左側付近にあった

〔住所〕台東区千束4－11－22付近

吉原大門跡

Yoshiwara-omon Gate Ruins

女郎の逃亡を見張った吉原遊郭唯一の出入り口

かつての吉原遊郭への唯一の出入り口です。元和3年（1617）、幕府公認の遊郭として葺屋町（現在の日本橋人形町）に誕生した吉原は、明暦3年（1657）に起こった明暦の大火のあと、現在地へと移転しました。最盛期には約3000人もの女郎が在籍していたという吉原の出入り口を大門ひとつだけにしたのは、治安のためだけでなく、女郎の逃亡を防ぐことが最大の目的だったといわれています。

現在は門のあった場所に街路灯が建てられ、そこに「よし原大門」と書かれているのみで、往時を偲ばせるものは残念ながらありません。ちなみに「おおもん」と京風に呼ぶのは、芝の増上寺の「大門」と区別するためともいわれています。

写真：かつて大門のあった場所に建つ街路灯

〔住所〕台東区千束4－33－2付近

見返り柳

Mikaeri-yanagi Monument

帰りの遊客が振り返ったという遊郭の入り口付近に生えた柳

衣紋坂や五十間道への入り口にあたる山谷堀脇の土手に植えられた柳です。吉原で遊んだ客が帰るとき、この柳のあたりで名残惜しそうに遊郭を振り返ったことから名づけられました。京都の島原遊郭の門口に植えられた柳を模したといわれ、吉原遊郭の名所のひとつになっていました。

江戸時代は土手にあった柳ですが、道路や区画の整理に伴って、現在は土手通りの「吉原大門」交差点に移されています。震災や戦災などで焼けたり枯れたりするたびに新しい柳が植えられ、現在は6代目です。樋口一葉の小説『たけくらべ』の冒頭に登場するほか、「きぬぎぬの うしろ髪ひく 柳かな」「もてた奴 ばかり見返る 柳なり」など川柳にも多く詠まれています。

写真：交差点の歩道に配されている「見返り柳」

〔住所〕台東区千束4－10－8付近

吉原神社

Yoshiwara-jinja Shrine

九郎助稲荷社をはじめ5つの稲荷社を合祀した神社

明治14年（1881）、吉原遊郭の守護神として鎮座していた5つの稲荷社を合祀して創建された神社です。その5つとは、大門前の「吉徳（玄徳）稲荷社」と、遊郭内の四隅に配置された「九郎助稲荷社」「榎本稲荷社」「明石稲荷社」「開運（松田）稲荷社」です。当初は吉徳稲荷社の旧地に祀られましたが、昭和9年（1934）に現在地へ新社殿を造営して遷座し、その際に近くの吉原弁財天も合祀しました。

祭神は稲荷神である倉稲魂命と、弁天様である市杵嶋姫命です。開運・商売繁昌・技芸上達などのご神徳があるといわれ、やはり土地柄か女性の悩みを聞いてくれる神様としても人気を集めています。境内には福を呼ぶ「お穴さま」などもあります。

写真：現在の社殿は昭和43年（1968）に竣工

〔住所〕台東区千束3－20－2

吉原弁財天本宮

Yoshiwara-benzaiten-motomiya Shrine

悲運の女郎たちを慰霊する吉原神社の境外社

吉原神社の境外社です。この場所には、昭和34年（1959）まで弁天池や花園池と呼ばれる池がありました。その弁天池のほとりには弁財天の祠があり、吉原遊郭の関係者たちの信仰を集めていました。これが現在の吉原弁財天本宮の起源です。

社殿は平成24年（2012）に有志たちによって改修工事がなされ、壁一面に東京藝術大学の学生による壁画が描かれました。そのほか境内には、吉原遊郭の歴史を後世に伝える「花吉原名残碑」や、関東大震災のときに避難してきて池で溺死した約500人の女郎たちを慰霊する「吉原観音像」などが建っています。また、戦後の再開発で埋められた弁天池がわずかに残っていて、ニシキゴイが泳いでいます。

写真：古川柳研究家の山路閑古が撰文した石碑

〔住所〕台東区千束3－22

旧町名由来案内

Kyu-chomei-yurai-annai Guide Board

吉原の旧町名の区画を学べ往時の追体験に役立つ解説板

台東区の街角に立つ「下町まちしるべ」と題した旧町名の解説板です。かつて吉原遊郭のあった「旧浅草新吉原」には、「江戸町一丁目」（吉原公園）、「江戸町二丁目」（大門付近）、「角町」（千束四丁目の交差点付近）、「揚屋町」（同）、「京町一丁目」（千束保健センターの交差点付近）、「京町二丁目」（京町公園）の6つの解説板があります。

当初、吉原は葺屋町に開設されました。そこには、江戸の繁盛ぶりにあやかった江戸町一・二丁目、京の出身者が多かった京町一・二丁目、京橋の角町から移った角町の5町があり、この町名が浅草新吉原に移転後も受け継がれました。移転の際、それまで各町にあったいくつかの揚屋をいか所にまとめてできたのが揚屋町です。

写真：仲之町通りの沿道に立つ揚屋町の解説板

〔住所〕台東区千束4－31－2付近（揚屋町の解説板）

お歯黒どぶ跡

Ohaguro-dobu Ruins

女郎たちの逃亡を阻んだ お歯黒どぶの石垣擬定地

お歯黒どぶは、女郎たちの逃亡を防ぐため、吉原遊郭をぐるりと囲むようにつくられた堀です。その幅は5間（約9メートル）もあり、実際には女郎の逃亡だけでなく、無銭飲食をした遊客を逃さないという役目も果たしていたといわれます。名称の由来は、女郎たちが使ったお歯黒の汁を捨てたからというのが定説で、そのせいで堀の水は真っ黒だったそうです。逆に、お歯黒のように黒く汚いどぶだったから名づけられたという説もあります。

お歯黒どぶは時代の流れとともに埋められ、現在は「お歯黒どぶの石垣擬定地」に名残をとどめているだけです。吉原公園の北東に面した道路は、周囲との段差からお歯黒どぶだったと考えられています。

写真：吉原交番と吉原公園の中間地点にある石垣

〔住所〕台東区千束4-33-12付近

吉原公園

Yoshiwara Park

吉原の三大妓楼のひとつ 大文字楼が建っていた場所

かつて吉原遊廓にあった大籬（格式の高い女郎屋）のひとつ「大文字楼」の跡地です。「角海老楼」「稲本楼」とともに「吉原の三大妓楼」に数えられた大文字楼は、昭和19年（1944）の東京大空襲の数週間前に、工場の高級宿舎として解体・移築されました。ちなみに、稲本楼は現在のホテル稲本のあたりに、角海老楼は千束保健センター交差点の北面の角にあるマンションのあたりに、それぞれ建っていました。

大文字楼はお歯黒どぶに面していて、楼内には跳ねあげられた状態の「跳ね橋」があったそうです。これはお歯黒どぶに架かる9か所あった跳ね橋のひとつで、火事や災害などの緊急時に内側から橋を降ろし、女郎たちを脱出させるためのものでした。

写真：子どもの遊び場と大人の遊び場が同居する公園

〔住所〕台東区千束4-40

鷲神社

Otori-jinja Shrine

吉原行きの口実とされた 酉の市を開催する神社

毎年11月の酉の日に開催される「酉の市」で知られる神社です。祭神は天日鷲命と日本武尊で、「おとりさま」の愛称で親しまれています。酉の市の起源発祥の地ともいわれ、当日は幸せを掻きこむ縁起物の熊手を求める人でにぎわいます。年によって2度または3度開かれますが、三の酉のある年には火事が多いと伝えられています。

江戸時代、神社が西隣に鎮座することから、吉原では酉の市の日は通常開けない大門以外の門を開放して遊客を呼び入れたそうです。昼見世から繁盛する酉の市は、遊郭にとっても書き入れどきでした。また、江戸の男たちにとっても、酉の市への参拝は吉原に繰りだす格好の口実になり、どんどん盛況になったともいわれます。

写真：国際通りに面して建つ鷲神社の叉木

〔住所〕台東区千束3-18-7

山谷堀公園

Sanyabori Park

吉原への水上路だった 山谷堀の一部を整備した公園

江戸時代初期に荒川の氾濫を防ぐため築かれた山谷堀を、暗渠にしたときに日本堤から隅田川入り口までの約700メートルを整備した細長い公園です。江戸時代、山谷堀は吉原へ猪牙舟に乗って向かう水上路として発達しました。猪牙舟は陸路で行くよりも優雅で粋とされたため、吉原通いを「山谷通い」とも称したほどです。

現在、公園には猪牙舟のモニュメントが設置され、乗ることができます。また、公園内に親柱だけがある「紙洗橋」は、浅草紙職人たちが古紙をリサイクルする工程で、苑でてやわらかくした古紙を桶で「冷やかす」時間やることがなく、近所の吉原に行って女郎の見物だけをしたそうで、それが「冷やかす」の語源となったといわれます。

写真：聖天橋の近くにある猪牙舟のモニュメント

〔住所〕台東区浅草7-9-11付近（猪牙舟）

吉原エリアの地図

浄閑寺

Jokan-ji Temple

新吉原総霊塔が建つ 吉原の女郎たちの投込寺

吉原の女郎の投込寺として有名な浄土宗の寺院で、とくに安政2年（1855）の大地震で犠牲になった女郎たちの遺体が大量に投げ込まれたことで知られます。寺の過去帳によると、埋葬された女郎の数は全部で2万人を超え、その平均寿命は22歳程度でした。性病や過酷な環境での生活が、女郎たちの寿命を奪ったといえます。

現在、本堂裏の墓地には、女郎たちを供養する「新吉原総霊塔」が建っています。塔の基部には川柳作家の花又花酔が詠んだ句「生まれては苦界、死しては浄閑寺」が刻まれています。小説家の永井荷風は、女郎の暗く悲しい生涯に思いを馳せて、たびたびこの寺を訪問していました。荷風の筆塚と詩碑は、その縁で建てられました。

写真：化粧品などが供えられている新吉原総霊塔

〔住所〕荒川区南千住2-1-12

正法寺

Shobo-ji Temple

顕彰碑や墓碑などがある 蔦屋重三郎たちの菩提寺

蔦重（喜多川柯理）の菩提寺として知られる日蓮宗の寺院です。神楽坂の善國寺、芝の正傳寺とともに「江戸の三大毘沙門天」のひとつである毘沙門天像を安置しています。また、山谷堀に架けられていた正法寺橋の由来になったともいわれます。

現在、境内には「喜多川柯理墓碣銘」「実母顕彰の碑文」と刻まれた蔦重の顕彰碑が建っています。碑文は大田南畝（蜀山人）と石川雅望（宿屋飯盛）が手がけたものです。蔦重の墓は火災・震災・戦災などで墓石が残せず、寺が灰塵に帰すたびに歴代の住職が蔦屋家の遺骨をかき集め、それを萬霊塔に納めました。蔦屋家先祖累代が刻まれている碑の上段の左から3番目「幽玄院義山日盛信士」が蔦重の法号です。

写真：蔦重の顕彰碑や墓碑など

〔住所〕台東区東浅草1-1-15

平賀源内の墓

Hiraga Gennai Grave

日本のダ・ヴィンチが永眠している住宅街の墓

江戸時代屈指のマルチクリエイターとして知られる平賀源内の墓です。とくに、エレキテル（摩擦起電機）の復元製作や、火浣布（石綿の耐火布）の発明などで高名な源内でしたが、安永8年（1779）に過失で殺人事件を起こし、伝馬町牢屋敷内で獄死しました。遺体は「江戸三箇寺」のひとつである総泉寺に葬られ、寺院が板橋区小豆沢に移転したあともこの地に墓が残されたそうです。

昭和6年（1931）に生まれ故郷である旧高松藩主の松平頼寿によって築地塀が整備され、昭和18年（1943）に国史跡に指定されました。現在、住宅街の一角に門と築地塀が残ります。金属製の扉を開けて門をくぐると、源内の墓や顕彰碑などに参拝できます。

写真：屋根がついている平賀源内の墓

〔住所〕台東区橋場2－22－2付近

山東京伝机塚の碑

Santo Kyoden-tsukuezuka Stone Monument

蔦重とも親交のあった京伝の愛用机を埋めた場所

浅草寺の本堂裏側の茂みにある石碑群の一角に建てられている石碑です。山東京伝は多数の洒落本や黄表紙などを著した江戸時代の代表的な戯作者であり、北尾政演の画号を持つ浮世絵師でもありました。

この机塚は、京伝の死後、ボロボロになるまで愛用していた机を弟の京山が埋め、石碑を造立したものです。本小松石（神奈川県真鶴産）でつくられた碑は、高さが約143センチメートルもあります。その表面には机についての小文を刻み、裏面には京伝の友人であり、当時を代表する文化人でもあった大田南畝（蜀山人）の撰による京伝の略伝を銘記しています。京伝の生涯や人間性を伝える貴重な史料として、台東区有形文化財になっています。

写真：浅草寺病院の南側にある茂みに建つ石碑

〔住所〕台東区浅草2－30－11付近（浅草寺本堂裏）

今戸橋跡

Imado-bashi Bridge Ruins

吉原通いの舟が行き交った山谷堀の最下流の橋

今戸橋は山谷堀の最下流の橋で、隅田川と山谷堀が合流するところに架かっていました。この橋の下を吉原通いの猪牙舟が通っていたころには、その舟を「親不孝舟」などと呼んだそうです。また、往時は「今戸橋上より下を人通る」と川柳に詠まれるほどのにぎわいだったといわれます。

現在、山谷堀が暗渠になったことによって、山谷堀公園の南端の入り口付近とその道向かいに親柱だけが残っています。この親柱は大正15年（1926）に竣工されたものです。ちなみに山谷堀に架かっていた橋は、下流から今戸橋・聖天橋・吉野橋・正法寺橋・山谷堀橋・紙洗橋・地方新橋・地方橋・日本堤橋の9つあり、日本堤橋以外は親柱が残っています。

写真：隅田公園の山谷堀広場側に残る今戸橋の親柱

〔住所〕台東区今戸1－6－26付近

待乳山聖天

Matsuchiyama-shoden Temple

池波正太郎の生家に近い大根と巾着がシンボルの寺院

正式には「本龍院」という浅草寺の支院のひとつで、「しょうでんさま」の愛称で親しまれています。本尊の歓喜天（聖天）は、象頭人身の男女の神が抱擁している姿をしており、その姿からとくに夫婦和合のご利益があるとされ、子授け・良縁・富貴をあたえてくれるとして広く信仰されました。境内のあちこちに夫婦和合を象徴した二股大根と、富貴を表した巾着が施されています。大根をお供え物とするのが特徴で、社務所では大根が売られています。

待乳山聖天公園には、「池波正太郎生誕の地」の碑が建っています。火付盗賊改方長官の長谷川平蔵（宣以）を主人公とする『鬼平犯科帳』を書いた池波正太郎は、このすぐ近所で生まれました。

写真：待乳山聖天公園の「池波正太郎生誕の地」碑

〔住所〕台東区浅草7－4－1

参考資料

- １. 日程：2026年 1月24日（土）10時　JR南千住駅西口改札集合
- ２. 見学予定地
- ＜初詣会＞
- ①　小塚原回向院、延命寺　②　平賀源内の墓　③　吉原大門、見返り柳、新吉原跡地
- ④　吉原神社、吉原弁財天
- ⑤　鷲神社
- ⑥　浄閑寺
- 三ノ輪駅12時40分　北千住12時50分
- ＜懇親会＞
- 個室座敷 海鮮居酒屋 はなの舞 北千住駅西口店　13：00～　https://izakaya-hananomai.com/
  TEL　03-5813-1910
- お問い合わせ　まほろば会幹事　上原・斎多・西村まで
- 緊急時連絡先　上原携帯090-1053-3661　斎多携帯090-8806-9453　西村携帯090-3876-9491